



フレッヂ

発行 / 地方独立行政法人明石市立市民病院
 編集 / 地方独立行政法人明石市立市民病院広報委員会
 〒673-8501 兵庫県明石市鷹匠町1-33
 ☎(078)912-2323
 URL : <http://www.akashi-shiminhosp.jp/>

年頭のご挨拶

理事長 兼 院長 藤本 莊太郎



新年明けましておめでとうございます。皆さまにはご家族で楽しいお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。昨年は新聞やテレビ報道で、アベノミクス効果によって日本経済に明るい変化があるとの記事を多く目にしました。確かに株価は50%以上も上昇し、2020年の東京オリンピック開催も決定いたしました。目にする活字や数字には大いに希望を抱きますが、実際の私たちの生活は消費税増税を控え、また保険や年金の個人負担増などもあり、やはり厳しい年になるのではと覚悟せねばならないように感じます。

しかしながら、年頭から悲観的になっては世の中面白くありません。私は毎年のこの年頭のご挨拶で、十二支にまつわる故事由来を紐解き、こじつけになるのですが、新年に希望を持ちたいと思っています。

今年(き)は十二支(子午寅卯…西戌亥の12支)でいうと午年(うま)になります。さらに十干(甲乙丙丁…壬癸の10干)でいうと甲年(きのえ)です。すなわち今年(き)は甲午(きのえうま)です。それぞれの年は、10干12支の組み合わせでその最小公倍数の60通りの組に割り当てられます。生まれ年が一巡してくる60年目が還暦となります。

さて、今年(き)の甲午(きのえうま)はどのような年なのでしょうか？

午(うま)は正午の午で、太陽が一番高く上がった陽の極を指します。ちなみに、明石は“子午線の町”ですが、午(うま)は南、子(ね)は夜中の12時で陰の極である北を表すといえます。午(うま)は陽の極で今は絶好調なのですが、これから太陽は落ちる一方であり、一昨(おととし)年の辰(たつ)や昨(こぞ)年の巳(ひ)のように上昇一途とはいかない年と言えます。しかしながら、甲(きのえ)は十干のトップバッターで昔の通信簿(つうしんぼく)でいえば優等生(ゆうとうせい)ですし、草木(くさき)の芽(こぼ)が殻(か)を破(やぶ)って頭(かぶ)を出すことを表す象形文字(じやうけいぶんじ)です。願(ねが)わくば、今年(き)の甲午年(きのえうま)は午(うま)の衰(おとろ)えに甲(きのえ)の旺盛(わんせい)なエネルギー(エネルギー)を注入(じゆんじゆ)してもうひと頑張り(がんぱり)できる1年(いちねん)になると解釈(かいしゃく)したいものです。

当院(とういん)も地方独立行政法人化(ちほうどくりつぎょうせいほうじんか)後の2年間(にねんかん)で、スタッフ(スタッフ)も増加(ぞうか)し診療(しんりょう)にも活力(きらく)が出て参(ま)りました。これ(これ)も患者(かじや)さんや市民(しみん)の皆さま(みなさま)、連携(れんけい)医療機関(いりょうきかん)の皆さま(みなさま)方(かた)のご支援(ごしえん)の賜物(たまひつ)と職員(しやくいん)一同(いっとう)感謝(かんしゃ)いたしております。この1年(いちねん)が甲午(きのえうま)の故事(こし)になら(な)い、更(さら)なる病院改革(びやういんかいかく)が進む(すす)む良(よ)き年(ねん)になるように頑張り(がんぱり)たいと思(おも)います。

皆さま(みなさま)にとりまして(も)幸多(さいた)き1年(いちねん)となら(な)れますように祈(いの)念(ねん)いたします。

消防訓練を実施しました

総務課

明石市立市民病院(あかししりつしみんびやういん)では平成25年11月5日に、消防訓練(しょうぼうくんれん)を実施(じっし)しました。昨年(こぞ)10月に福岡(ふくおか)の整形外科(せいしやくがけい)医院(いびん)で火災(かさい)があり、病院火災(びやういんかさい)の怖(こ)さを再認識(さいにんしき)した中(なか)で訓練(くんれん)が行(い)われました。消火器(しょうぼうき)・消火栓(しょうぼうせん)取扱(とくあ)講習(くわうしゆ)も行(い)われ、多くの職員(しやくいん)が積極(せきこく)的に参加(さんか)し、熱心(ねっしん)に取扱い(とくあ)方法(かた)を確認(かくにん)し、放水(ほうすい)訓練(くんれん)を行(い)いました。

訓練(くんれん)終了(しゆうりょう)後(ご)には、消火設備(しょうぼうきそび)・誘導経路(ゆうどうけいじろ)の再確認(さいかくにん)をする姿(すがた)や訓練(くんれん)の反省点(はんしやうてん)・改善(かいぜん)提案(ていあん)などの意見交換(いけんこうかん)も行(い)いました。今回(こんかい)の消防訓練(しょうぼうくんれん)が充実(じゆんじゆ)した訓練(くんれん)であつたことを実感(じつかん)しました。



怪我人を搬送する訓練

新型インフルエンザ対策訓練を行いました

院内感染対策委員会

明石市立市民病院(あかししりつしみんびやういん)では年(ねん)に1回(いちかい)、新型インフルエンザ(しんがたいんぷるえんざ)対策訓練(たいさくくんれん)を実施(じっし)しています。今年度(ことしど)は平成25年10月31日(じつ)に、「強い病原性(たうげんせい)、高い感染力(かんせんりき)の新型インフルエンザ(しんがたいんぷるえんざ)が東播磨(とうはま)地域(ちいき)に感染拡大(かんせんくわだ)してきたため、公的医療機関(こうてきいりょうきかん)として患者(かじや)さんの対応(たいおう)をする」という想定(さうてい)の訓練(くんれん)を行(い)いました。

改めて(あらためて)、患者(かじや)さんが発生(はっせい)した際(さい)の地域(ちいき)の混乱(こんらん)や対応(たいおう)医療機関(いりょうきかん)としての混乱(こんらん)を避(さ)けるためには、日頃(ひぐら)からの備え(びえ)は大切(たいせつ)であると考え(かんが)え、医療チーム(いりょうちいむ)の動き(うご)きを見直(みなお)す機会(きかい)となりました。



訓練の様子

脳神経外科のご紹介

脳神経外科部長 齋藤 実



脳神経外科では脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷などに対して診断、治療を行う診療科です。脳血管障害は脳動脈瘤からの出血をきたすくも膜下出血、高血圧を基礎に発症する脳内出血、脳血管が詰まることによる脳梗塞に大別され、近年脳梗塞の頻度が増加しています。脳血管障害は早期の診断と治療の開始とともに、リハビリテーションを行っていくことが重要です。



脳血管の閉塞例（矢印部分で閉塞）

くも膜下出血は突然、頭痛、嘔吐が出現し発症直後から強い意識障害をきたして突然死の原因となることがあります。出血源となる脳動脈瘤の根治術を行う必要があります。開頭によるクリッピング術あるいはカテーテルによる塞栓術を行います。

脳内出血も手足の麻痺、ろれつ困難、しびれなどとともに意識障害が出現することが多いです。血腫量が多い場合には手術により血腫を除去することがあります。

脳梗塞は手足の麻痺、ろれつが回らない、しびれやめまいが突然出現したなどの症状が多いですが、障害される部位により視野が欠ける、話す内容がおかしい、行動に異常があるなどで発症することがあります。発症4.5時間以内であれば血栓を溶解する薬を投与して症状の改善を図ることがあります。

頭痛、しびれなどは日常よく見られる症状ですが、これらの重大な疾患との鑑別が重要であり正確な診断には神経学的な診察とCT、MRI、脳血管造影などを用いた専門的な検査が必須です。当院ではこれらの機器を駆使して脳卒中の診断を速やかに行い、治療を開始しています。

経験豊富なスタッフとともに早期のリハビリテーションを開始し、急性期治療後には回復期リハビリテーション病院での更なるリハビリテーションの施行を推進しています。

脳血管障害はその発症予防が大切であり、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙が大きな危険因子です。これらを治療することにより脳血管障害の危険が少なくなることが分かっています。日頃から高血圧の有無や糖尿病、高脂血症の状態についてよく知っておきましょう。またタバコはこの危険性をさらに増強するために注意が必要です。かかりつけ医と相談し、ご自身の健康状態を管理して脳卒中を予防していきましょう。



脳内出血の症例



広範囲脳梗塞の症例

リハビリテーションの土曜日、日曜日実施のお知らせ

リハビリテーション課

地域医療における当院の役割である急性期医療に、リハビリテーション課も力を入れて取り組んでいます。平成25年6月に、急性期のリハビリテーション（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）を担当するスタッフが増員されたため、1人の患者さんにより多くの時間をかけて、トレーニングや指導を行えるようになりました。

また、より早期からのリハビリテーションや、継続したリハビリテーションが特に必要と思われる**入院患者さんを対象に**、土曜日と日曜日のリハビリテーションの実施を、平成25年11月から始めました。今後とも、患者さんのさらなる回復に貢献していききたいと思います。



リハビリテーション課スタッフ

「かかりつけ医」を持ちましょう！



～市民病院から患者さんへのお願い～

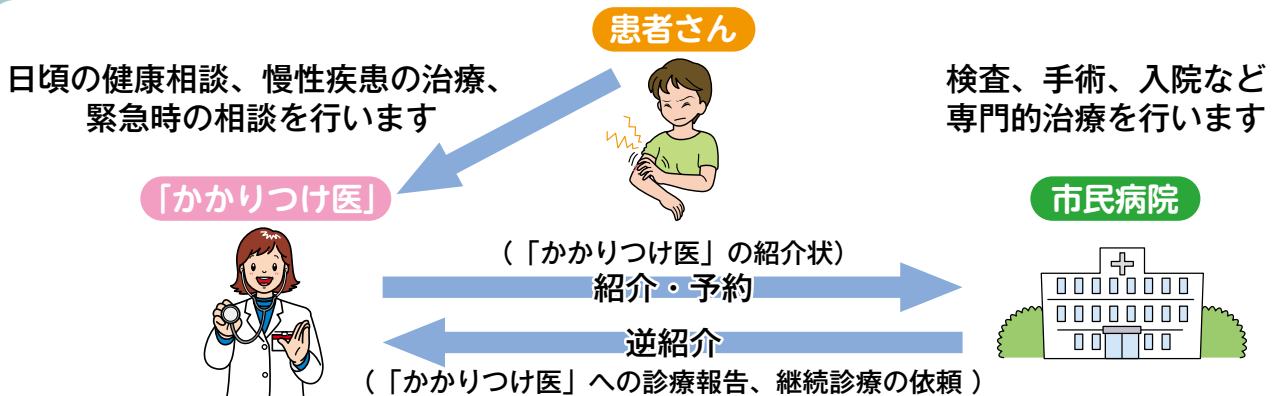
地域医療連携課
(TEL 912-2323(代))

「かかりつけ医」とは？

「かかりつけ医」とは、日頃からの健康相談や病気の初期治療、慢性疾患の治療、緊急時すぐに相談できる地域の診療所やクリニックの医師です。

「かかりつけ医」は、ご家族一人ひとりの日常的な病気の予防と、治療・健康管理を親身になって考えてくれ、病状に応じて、市民病院をはじめ、適切な病院を紹介してくれます。

「かかりつけ医」と市民病院の役割分担



「かかりつけ医」の紹介状によって、市民病院の医師はこれまでの病状や治療内容などが分かるため、市民病院でのよりスムーズな診療が可能になります。患者さんの症状が安定して、市民病院での専門的治療が終了した場合には、「かかりつけ医」へ逆紹介させていただきます。普段は「かかりつけ医」で診ていただき、必要なときには、市民病院に紹介、予約していただけます。

市民病院は、地域医療連携を進めています！

ちょっとした病気でも、設備の整っている総合病院を受診する患者さんが多く見受けられます。手術や入院を必要としない軽い風邪などの患者さんが病院に集中し、本来の急性期病院としての業務に支障をきたしています。このような傾向を解消し、よりよい地域医療を提供するため、「かかりつけ医」と市民病院をはじめとする急性期病院が適切な役割分担のもと、患者さんを紹介し合う仕組みが、「地域医療連携」です。

「地域医療連携」により、市民病院は、入院や手術を要する治療を積極的に行い、地域医療を守る中心的な病院として、患者さんにより良い医療を提供できるよう努力してまいりたいと考えています。皆さまのご理解をよろしくお願い致します。

「かかりつけ医」の紹介状をお持ちになると…

- ☆初診時特定療養費^(※)がかかりません。 ※「かかりつけ医」の紹介状をお持ちでないときにかかる費用です。
- ☆検査やお薬の重複を避けることができ、医療費の節約と安全の確保ができます。
- ☆待ち時間が短くて済みます。

地域医療連携課が、「かかりつけ医」を探すお手伝いをしますので、まずは、担当医や看護師におたずねください！

地域医療連携課の紹介

「かかりつけ医」を探すお手伝いをします!

「かかりつけ医」を探したいと思っても、どうしてよいか、分からなくて困っていませんか? そんなときは、地域医療連携課にご相談ください。「かかりつけ医」を探すお手伝いをします。

診察や検査の予約をお受けします!

地域医療連携課が、「かかりつけ医」からの紹介をお受けする際には、診察や検査の予約を行います。診察の予約は待ち時間が短くなり、スムーズに受診できます。CTやMRI検査は、「かかりつけ医」を通じて予約していただくと、診療時間内に加え、平日の午後5時から午後7時まで、土曜日の午前9時から午前11時30分までご利用できますので、仕事や学校を休むことなく検査を受けることができます。

受診後は、「かかりつけ医」への経過報告を、個人情報に十分配慮した上で、スピーディーにお返ししています。

病気に関する不安や悩みについて

「退院後の生活が心配」、「在宅(家庭)での看護や介護が不安」など、患者さんやご家族の方は、療養中にさまざまな不安や悩みが出てくる場合があります。

地域医療連携課では、そのような不安や悩みを、看護師や医療ソーシャルワーカーがお聞きし、一緒に考え、解決できるようお手伝いいたします。

また、ケアの継続については、地域の医療機関や介護療養施設との連携窓口になっています。

地域医療連携課までご相談ください。

在宅(家庭)での
看護・介護の
不安

退院後のことが
心配

介護保険制度
について

保険福祉制度
について
知りたい

他の病院や
施設の事を
知りたい

家の近くの
医療機関を
知りたい



かかりつけ医(登録医)はホームページで検索できます

明石市立市民病院では、かかりつけ医(登録医)を簡単に検索できる「登録医検索システム」を開設しています。

当院ホームページからアクセスでき、地域、診療科目、医療機関名、住所などから簡単に地域の医療機関を検索できるようになっております。詳しくは当院ホームページをご覧ください。

- ✓ かかりつけ医(登録医)を簡単に検索
- ✓ 地域や診療科目、住所からお近くの医療機関を検索可能
- ✓ 登録情報をA4サイズで印刷可能

明石市立市民病院 登録医検索システム

検索



こんにちは！救急総合診療科です！ ～救急総合診療科開設1年がたちました～

救急総合診療科部長 小平 博

みなさま、こんにちは！

救急総合診療科 小平 博と申します。明石市立市民病院に救急総合診療科を開設し、1年がたちました。各診療科の先生方の厚いバックアップがあり、1年間無事に運営ができた実感しております。

さて、救急医の主な仕事は、地域医療機関から紹介された患者さんや救急搬送された患者さんの初療を担当します。救急総合診療科は、肺炎などの内科系疾患から多発外傷や、心肺停止患者さんなどの重症疾患の治療など、多岐にわたります。救急総合診療科開設から救急搬送の患者さんの受け入れが増加し、今年度は昨年度の救急車搬送患者数を大きく上回ると予想されます。

4月より運用開始しているドクターカー（DMERC：ディマーク）も、累計18回（平成25年4～11月実績）の出動を数え、スタッフ一同、日々鍛錬を惜しまないよう努めております。「救える命は救う」をモットーに、「困ったときの市民病院！」となれるよう、日々精進してまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。



救急総合診療科スタッフ（右から3人目が小平部長）

CTを新たに導入しました！

放射線技術課

平成25年12月より、既存の64列マルチスライスCTに加え、新たに最新の80列マルチスライスCT装置（Aquilion PRIME:東芝製）が稼働しました。本装置は、多くの新技術を搭載して、被ばくの低減と画質の向上に比べ、検査時間の短縮や、より良い検査環境を提供できる装置です。

被ばく低減の面では、メーカー独自の画像計算処理により、撮影から画像計算までを管理するさまざまな被ばく低減技術を搭載しています。

検査時間短縮の面では、1回転0.35秒、寝台移動速度160mm/秒と、広範囲を高速で撮影が出来ます。また画像計算速度も速くなり、検査の効率化が図られています。

検査環境の面では、装置の開口径がこれまでより広くなり、検査における圧迫感の軽減や、撮影体位の柔軟性が高まり、よりリラックスした状態で検査を受けていただけます。

本装置は高齢の患者さんから小さいお子さん、救急患者さん、さらに心臓検査、血管系の検査など幅広く対応できる装置です。2台のマルチスライスCTを有効に活用し、地域医療に貢献できればと考えています。



新たに導入した80列マルチスライスCT装置



CTで撮影している様子をモニタリングしています

第2回病院まつりを開催しました！

病院まつり実行委員長 理事 兼 副院長 川人 眞由美

秋晴れの中、ファンファーレの合図で風船が高らかに上がり、「第2回病院まつり」が開催されました。続いて錦城中学校吹奏楽部の演奏が、病院まつりを更に盛り上げるべく鳴り響きました。

今年度のテーマは、地域の皆さまとの心と心の絆を深めようと「心に刻むあなたとの絆」としました。地域の皆さまにより健康に関心を持って頂けるように、そして、見て・味わって・体験して、ご家族皆で楽しんで頂けるようにと、職員一同一丸となって取り組みました。

屋外では、焼肉バーガー、明石焼き、きのこカレーなど準備していた食べ物は完売し、ステージでは、「市民病院へっぽこ救急隊参上！」や三線演奏、保育園児のダンスなどに大きな拍手と笑顔が溢れました。屋内では、血管年齢や頸動脈エコー検査後、医師に熱心に健康相談をされていました。ハンドマッサージは、列が途切れることなく大人気の中終了しました。

1,000人以上の方に足を運んでいただき「来年も楽しみにしています」など嬉しい声を頂きました。地域との絆を深めることができた心に残る一日となりました。病院まつりにご来場下さいました地域の皆さまに、心より感謝しお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



「明石・健康〇×クイズ」も行いました



どの飲食コーナーも好評でした

院内コンサートをを行いました

平成25年12月14日、院内コンサートを開催しました。職員が奏でるハンドベル、ボランティアの方々による手話コーラス、ソプラノ歌唱とギター演奏のデュオ「コンソラーレ」の心に残る歌声に、感動という瞬間を味わうことができました。

参加された患者さんから「こんなクリスマスプレゼントがあってビックリ!! 感動で涙が止まりませんでした。」と喜んでいただきました。職員手作りの心の籠ったクリスマスカードも好評でした。ほんのひとときでしたが、少しでも心の癒しになれたなら幸いに思います。

参加してくださいました皆さま有難うございました。



職員によるハンドベルの演奏を披露しました

糖尿病教室のお知らせ

日程・内容	1月14日(火)糖尿病の検査Ⅱ、シックデイ 2月4日(火)心療内科、運動療法Ⅱ 3月11日(火)まとめ
時間	午後1時30分～午後3時
場所	明石市立市民病院 2階講義室
参加費	無料
お申し込み	不要(直接会場へ)
お問い合わせ	栄養管理課または内科外来 ☎078-912-2323(代)

※内容は変更することがあります。
※平成26年度の内容につきましては決まり次第、市民病院ホームページにてお知らせいたします。

明石市立市民病院 糖尿病教室

検索



病院敷地内全面禁煙を実施しています。
ご協力をお願い致します。

編集後記

すっかりと冷え込み、寒さが身に染みる季節がやってきました。近年ランニングをする人やウォーキングに励む人が増えていますが、当院の事務職員も20kmのマラソンに挑戦中です！私もこれを期に、健康な身体を取り戻したいと思います。(E.T)